

## 『アメリカ太平洋研究』の刊行に寄せて

油 井 大三郎

1967年以来、東京大学教養学部の附属施設として設置されてきたアメリカ研究資料センターは、昨2000年4月1日より東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センターに改組されました。この改組は、従来の資料センターの機能に加えて、研究センターの役割を飛躍的に強化するとともに、従来のアメリカ合衆国研究に加えて、オセアニアを中心とする太平洋地域の研究を新たに加える目的で実施されました。そして、この改組に伴って、1996年から刊行してきました『東京大学アメリカン・スタディーズ』に代わって、本年より『アメリカ太平洋研究』をお届けすることになりました。

資料センター時代には、1978年以来『アメリカ研究資料センター年報』（1995年刊の第17号まで）を刊行し、アメリカ合衆国に関する各分野の研究動向を紹介するとともに、資料センターが収集した最新の文献や資料の案内を継続的に行ってきました。しかし、1990年代に入り、世界の情勢のみならず、「知の枠組み」自体も大きく変貌する中で、アメリカ合衆国研究も新たな角度からより総合的に研究することが求められるようになりました。その結果、公開シンポジウムを開催するなどのほか、資料センターにおける研究機能の強化をめざして、それまでの『アメリカ研究資料センター年報』に代わって1996年より『東京大学アメリカン・スタディーズ』の刊行を開始しました。この間の雑誌刊行にあたって、日米友好基金やアメリカ研究振興会などから多くの助成をいただきましたことを改めて感謝する次第です。

この『東京大学アメリカン・スタディーズ』の第1号では、公開シンポジウムの第一回「日米共生のパラダイム」や第二回「戦後50年と日米関係」などの記録を収録し、第2号では、第三回の公開シンポジウム「日米安保の再定義」の記録を収録するとともに、関連した独立論文を掲載しました。第3号からは、特集の編集を重視するようになり、「アメリカ史研究の新地平」と題した特集を組み、アメリカ合衆国史研究の新動向を示す論文を掲載しました。ついで、第4号では「クレオール視点から見た環カリブ広域移民研究」と文部省科学研究費による成果である「アメリカ植民地時代に関する基礎研究」を特集として組み、さらに第5号では「変貌する米国・太平洋関係」と題する特集で、アメリカ研究と太平洋研究の架橋の試みを先行的に開始してきました。

このような蓄積の上に、今年度より新たに『アメリカ太平洋研究』の刊行を開始するわけですが、この雑誌が、従来以上にアメリカ合衆国研究の重要なフォーラムとなるとともに、新たに太平洋地域研究の開拓の場となることを期待しています。その結果、太平洋という「地域」のなかでアメリカ合衆国を位置づけ直すことによって、アメリカ合衆国研究自体の新たな地平の開拓にも繋がってゆくことを願っています。しかも、その第1号としては「グローバリゼーションとアジア太平洋」と題した特集を組むことができました。この雑誌が今後着実に成長できるように、多くの方々に従来以上のご協力をお願いする次第です。